

名大の時間

「メンバーの思いを載せて——学生記者が考えるポランティアとは——」

うか。それぞれに思うポランティアがあるかと思いますが、学内で発行されている「ポランティア通信」は、このポランティアについて考えていく通信です。

学生記者として、今回様々な人にインタビューを行い、メンバーの意見をまとめていく中で、感じたことがあります。それは、一つのを仲間と協力しながら作り上げる達成感です。

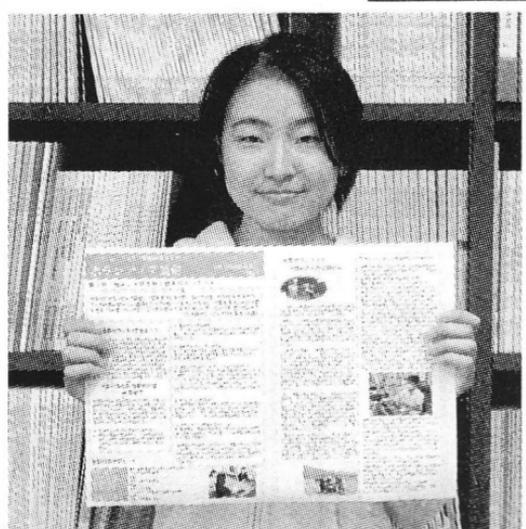
自由に紙面構成を考え、仲間と一緒に活発に話し合う時間は、このコロナ禍では中々味わうことが難しかった達成感を与えてくれました。

もちろん、授業内でもグループワークは徐々に再開し始めていますが、自分たちで一から企画を考え、取材を行い、文章を書くことは中々ないと思います。

や取材をしたいと思いい、学生記者に参加しました。出身も学科も学年も異なるメンバーで各々が意見を出し合い、完成に向けて進んでいく過程は今まで中々経験できなかった濃い時間でした。

また、編集会議ではそれぞれの意見をまとめながら話し合いを進めていく立場で、意見の内容を深掘りしてみたり、要約したりなど、普段は進んでやることのない役割やらせていただきました。普段なら、他の人の意見を聞いて終わりになってしまうがちな私ですが、より良いものを作るために苦手なことにも挑戦することができました。

今回の活動を通して、ポランティアについて深く考えるようになったのは勿論、大学生ならではの視点を詰め込んだ紙面作りはとても充実したものでした。このポランティア通信



信学生記者は始動し始めたばかりで、現在次号に向けて鋭意作成中です。個性豊かなメンバーの思いを大切にしつつ、魅力的な紙面を作ることができるよう、協力しあって頑張っていきたいです。

栄養学科3年
増田わかな

ポランティアと聞いてみなさんは何を思い浮かべるでしょう